

向陵通信

学校便り NO. 7

札幌市立向陵中学校

令和元年11月29日

合唱コンクール 講評

笠原 良子

10月31日(木)、校内合唱コンクールが札幌コンサートホール キタラで行われました。意欲的に授業に取り組む姿や部活動での素晴らしい活躍など、向陵中学校に転勤してきて驚いたことはたくさんありましたが、合唱コンクールで全学級の歌声にも感動しました。学級全員で歌を仕上げるまでには大変な苦勞をしますが、それを乗り越えてできあがった歌声はこのように素晴らしいものになるということであらためて知ることができました。

短い練習期間でしたが、あの大きなホールで歌えるというチャンスを活かし、全学級堂々と演奏することができました。キタラの大ホールはおよそ2000席ですから、人生でこんなに大きなホールで歌うという経験は、後にも先にもこの中学校時代だけ、ということになるかもしれません。約900人で歌った「ふるさと」は、忘れられない響きとして心に残ることでしょう。「整然と行われる整列・入場」「移動の時にはできるだけ足音を立てないよう配慮して歩く」「心を込めて拍手する」というマナーを守って取り組む姿にレセプションの方からも、お褒めの言葉を頂き嬉しく思いました。

1年生にとっては初めての舞台でしたが、指揮者をしっかり見て一生懸命歌う姿が立派でした。年度初めに「音楽は少し苦手です」と言っていたり、合唱コンクールはキタラで歌うことを伝えると「えー！」と驚いていた人にもいました。しかし、どのクラスも大変丁寧に歌うことができました。また、先輩方の合唱を聴いてまた来年の目標をたてることができたのではないのでしょうか。練習期間中には2、3年生の皆さんが1年生と合唱交流会をしてくれました。良い影響を与えてくれた先輩方に感謝したいと思います。

2年生の心のこもった合唱。優しさの中に気迫の感じられる合唱だったと思います。授業で1度だけ2年生の合唱を聴く機会があったのですが、指揮者の指導のもと、楽しく温かい雰囲気の中で熱心に練習が展開されていて、みんなで音楽を創る楽しさが感じられました。本番では学級全員で練習した成果を存分に発揮することができたのではないのでしょうか。1年生とは少し違う大人っぽい音楽表現に、たいへん好感がもてました。

3年生にとっては最後の合唱コンクール。聴く人を圧倒する本当に素晴らしい歌声で、全員が本気で取り組む姿にパワーを感じ、驚いています。自分たちでクラス独自の音楽を創りあげる喜びを堂々と表現し、「音楽はこうやってつくる」というお手本を示してくれました。本番直前にホワイエで行っていた声出しの歌声は2階で昼食を取っている後輩たちにも届いていて、憧れを抱いたことと思います。この合唱練習の取組で学級が大きく成長し、「この学級で良かった」と感じた3年生の皆さん。今度は卒業式でも素敵な歌声を聴かせてください。そして、「この学校で本当に良かった」と心から感じて巣立ってほしいと願っています。

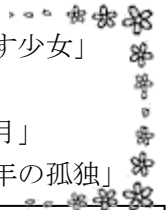
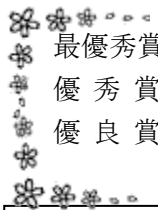
最後になりましたが、この行事が終わるまで保護者の皆様にはたいへんお世話になりました。心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

生徒会役員 ~よろしくお願ひします！

生徒会会長	2年8組	宮本 雄斗		
副会長	2年7組	柿本 心優	1年4組	齊藤 暖
書記	2年5組	大川原 実優	1年5組	松田 莉奈
会計	1年6組	西村 絢		



令和元年度 合唱コンクール結果



最優秀賞	1年3組「明日に渡れ」	2年6組「ヒカリ」	3年2組「花をさがす少女」
優秀賞	1年1組「道」	2年2組「親知らず子知らず」	3年3組「川」
優良賞	1年5組「雲の指標」	2年5組「時の旅人」	3年1組「消えた八月」
	1年8組「変わらないもの」	2年8組「走る川」	3年8組「二十億光年の孤独」

<1学年 最優秀賞>

1年3組 高島 航成

優秀賞の学級が発表された時、僕は3組は入賞できないと思い、落胆しました。というのは、本番、緊張すぎて実力を100%出し切ることができなかったからです。朝、昼、放課後と練習を一度も休むことなく、プロジェクトメンバーを中心に3組は一生懸命頑張ってきました。歌が苦手な人に対しても、熱く、粘り強くアドバイスをし続け、プロジェクト以外の人も互いに教え合っって切磋琢磨しました。このように、クラス全員が目標である「One for All」に向かって全力で取り組んできたことが最優秀賞の獲得につながったと思います。キタラという素晴らしい場所で、最後にみんなの笑顔が見られて大きな喜びを感じることができました。僕たちの合唱曲「明日に渡れ」の歌詞のように、これからも自分たちの目標に向かって走っていきこうと思います。

<1学年 優秀賞>

1年1組 桐山 愛弥

「優秀賞は1組です」そう言われたあの時、私は嬉しくてたまりませんでした。私は伴奏者として選ばれて、みんなを引っ張っていく存在になりました。しかし、最初はみんなをなかなかやる気にすることができず、落ち込んでいました。それでも、毎日欠かさず朝練習に来て、放課後も残ってくれるみんなを信じて、自分の気持ちをストレートに伝えました。「まだ全然やる気も歌も足りていない。」すると、みんなのやる気がどんどん上がり、実力を高めていきました。もちろん、仲間とぶつかることもありました。それを乗り越え、むかえた本番。今までで一番の演奏ができ、優秀賞を取ることができました。そのとき「みんなとここまで一緒にやってきてよかった」と思えました。私たちは、みんなで手にしたこの賞を忘れることはありません。

<2学年 最優秀賞>

2年6組 井田 彩那

「最優秀賞、2年6組！」と言われた瞬間、私の周りから大きな歓声が上がった。しかし私は胸が高鳴り、体が震えて声が出なかった。そして涙が溢れてきた。練習中は、合唱コンクールに対する気持ちがバラバラで意見がまとまらなかったり、歌がなかなかそろわなかったり、全員が同じ方向を向いて進んでいくことの難しさを実感していた。たくさんの時間をかけて、キタラのステージでやっと自分たちの「ヒカリ」を表現できたと思ったが、不安も大きかった。だが発表の瞬間、これまでの大変さは吹き飛び、本当にクラスが一つになったと感じた。この感動を共有した37人、絆は深まり、来年への挑戦へも同じ気持ちで向かいたい。再び「ヒカリ」輝く笑顔のために。

<2学年 優秀賞>

2年2組 岡本 祐奈

「親しらず子しらず」。はじめは、長くて難しいこの曲に私は大反対でした。クラスでも意見が割れ、この先どうなるか不安でたまりませんでした。そのとき、「この曲で最優秀賞とればいいじゃん。」という指揮者の言葉。それからは、「最優秀賞は私たちのものだ!!」というような雰囲気になり、みんなの気持ちが良い方向に進み始めました。合唱コンクール当日。なんと優秀賞で「2組」と呼ばれたのです。この曲で頑張ってきて良かったと心から思いました。この喜びは、あのときの指揮者の言葉がなければ感じることはできなかったでしょう。仲間一人の言葉で全員が団結できたことで、仲間の大切さを改めて知りました。来年は、大好きな仲間と最優秀賞が取れるように、より一層頑張りたいです。

<3学年 最優秀賞>

3年2組 渡邊 光麗

「久しぶりに完璧な“花を探す少女”を聞いた」これは某先生から頂いた言葉なのだが、この一言が私の琴線に触れた。

お世辞にも“最高学年の自覚”やら、“他学年のお手本”なんて態度は2組には見受けられなかった。けれど持ち前のポジティブ精神と逆境にめげないメンタルの強さ、そして学年一のハーモニーで最優秀賞を獲ることができた。滅多に褒められない2組だけに、前述の言葉は強く心に響いた。不器用な2組の努力は普段表に表れることはなく、だからこそ出した結果に最高の誉め言葉をもらい、嬉しさを胸がいっぱいになった。私は二年間このクラスで伴奏できて良かった。2組のみんなは私の誇りである。

<3学年 優秀賞>

3年3組 時本 千聡

「好きだけど、嫌いになってしまう合唱コンクール。」そう言っていた指揮者に、私は共感しました。しかし当日、ステージ上でみんなが歌い終わったとき、さみしさと感動でいっぱいになり、涙がこみあげました。ふだんの練習では、しっかり歌えないことや、メリハリがつけられないことなど、うまくいかないときがたくさんありました。それでも、最終的には優秀賞をいただくことができました。合唱コンクールはつらいときの方が多いのにどうしてやるのだろうか？と思うときもありましたが、つらいことを乗り越えた先に楽しいことやうれしいことが待っていることに気づくためではないかと思えます。私はクラスのみんなや指揮者、ご指導してくださった先生方にとっても感謝しています。ありがとうございます。

<1学年 優良賞>

1年5組 松田 莉奈

最初、1年5組はどうなることかと思いました。声も出ていないし、みんながバラバラ。私も伴奏をうまく弾けなかったこともあり、まとまっているとは言えませんでした。しかし、学年交流会を終えて気持ちが入れ替わり、先生方の指導や3年生からのアドバイスをしっかりと聞き、レベルがどんどん上がっていきました。そして本番。緊張感があったものの、悔いの残らない合唱にすることができました。結果発表で、5組が呼ばれた時はとても嬉しかったです。練習を頑張ってきた、積み重ねてきた成果が形となって表れた瞬間でした。合唱コンクールは、5組の絆を深め最高の思い出になりました。これからも絆を大切にしていきたいです。

<2学年 優良賞>

2年8組 石原 彩加

今回の合唱コンクールで私は、アルトパートリーダーを担当しました。最初の方は自分の音に自信がもてず、いつも練習のときに吹奏楽部の人になおしてもらってばかりでした。音がとれるようになって、ソプラノにつられてしまったり、男声パートにつられてしまったりで、とても難しかったです。自分がみんなの足を引っ張ってしまっているのではと思う時もたくさんありました。そんな時いつもそばで歌っている人がいました。彼女はいつも優しくて一生懸命頑張っていました。自信がなくても真面目に声を出して、先生のアドバイスを全て楽譜にメモしているような頑張り屋でした。私は彼女を見て、自分もしっかりしなくてはと思いました。曖昧な音を一つ一つ確認したり、ブレスを合わせようと努力しました。そして本番、2年8組はひとつになれた気がしました。全員が集中して歌いきれていたと思います。本番まで私を支えてくれた彼女、みんなをまとめてくれた指揮者、毎日の練習ですっとピアノを弾き続けてくれた伴奏者に感謝です。

<3学年 優良賞>

3年8組 岩村 絃都

昨年の合唱コンクールで8組は、声量も表現力も足りなく、当然賞はとれなかった。だが、今年は違った。一人ひとり口を大きく開け、私は伴奏をしながらその迫力に圧倒させられた。今年の曲「二十億光年の孤独」は、テンポも速く、リズムや音程などすべてにおいて難しい。それでも、みんながこの曲を歌いきれたのは、昨年の悔しさや最後の行事という気持ちがあったからだ。練習中、集中力が途切れるときもあったが、確実にまとまった合唱になっていった。本番直前は円陣を組み、心をひとつにして臨んだ。舞台では、はじめのアカペラから本気になって歌っていた。私も懸命にピアノを弾き、悔いの残らない合唱にできた。表彰式では、全員が心から喜びことができ、今までの努力が実を結んだと感じられる瞬間であった。

<1学年 優良賞>

「合唱コンクールで築き上げたもの」

1年8組 田中 仁美嘉

私たちのクラスでは「変わらないもの」を歌いました。初めの頃は、頑張っている人だけが歌うという状態で、まともに声も出さず、入賞なんて夢のまた夢…と思っていた人が多かったと思います。でも、練習を重ねていくうちに、声をかけ合ったり、アドバイスを出し合ったりして、一部の人だけが頑張るのではなく、クラス一丸となって協力し合うことができました。本番では、緊張してうまくいかないところもあったと思いますが、これまでの練習の成果を出し切れたと思います。そして、結果は優良賞。最優秀賞には届きませんでした。8組のすごさを改めて知ることができました。1年8組の皆さん、先生、本当にありがとうございました。

<2学年 優良賞>

「ミッキーとガーちゃん和田中先生と」

2年5組 須田 羽奈

「ソプラノはミッキー、アルトはガーちゃん、テノールは田中先生」2年5組にしか通じない合言葉で臨んだ合唱コンクール。当日の合唱の出来はさておき、5組にとって思い出に残る行事であったのは間違いない。天然な指揮者と辛口伴奏者を中心に構成されたプロジェクトチーム。5組は良くも悪くも活発なクラスで、練習もプロジェクトが四苦八苦したのは言うまでもない。あっという間にむかえた合唱コンクール当日は、ハプニングだらけだった。そして、運命の結果発表…「優良賞、5組」と呼ばれた瞬間、今までのすべての努力が報われた気がした。今後の学校生活でも、学年一仲が良い5組にしか、いや、5組だからこそできることをしていこうと思う。

<3学年 優良賞>

3年1組 丸山 治之

私たちのクラスは、はじめこそみんなのやる気に差があったが、合唱交流会の後からクラスがまとまりはじめたと思う。練習を重ねるごとに少しずつ歌が良くなっていき、クラスのきずなも深まっていった。合唱コンクール当日は、キタラに向かう前にみんなで北海道神宮に行き、合唱の成功を祈願してから本番に臨んだ。しかし、本番途中で歌が止まった。去年の私たちならば、歌い続けることはできなかったが、みんなは、まるでなににもなかったように堂々と歌い続けていた。それは、クラスの成長を表していた。残念ながら、目標としていた場所にはたどり着けなかった。翌日もう一度みんなで歌った。「このクラスで本当によかった」と感じる事ができた。今回深めた信頼をこれからも大切にして、残りの中学校生活を過ごしたい。



各種大会の主な結果

【男子バスケットボール部】

<中体連新人戦 全市大会>

1回戦 シード

2回戦 向陵 78-41 中の島

3回戦 向陵 57-50 厚別北

4回戦 向陵 44-58 稲積

⇒ベスト 16

<1年生大会>

地区大会優勝

全市大会1回戦敗退 向陵 50-55 澄川

【女子バスケットボール部】

<中体連新人戦 全市大会>

1回戦 シード

2回戦 向陵 59-73 西岡

<1年生大会>

地区大会準優勝

全市大会1回戦惜敗 向陵 55-62 澄川

【剣道】<中体連新人戦>

男子個人戦 2-2 服部 颯登 3回戦惜敗

2-8 和田琉太郎 初戦惜敗

1-9 中山 孝介 初戦惜敗

女子個人戦 1-4 岩村 栞歩 初戦惜敗

男子団体戦 1回戦シード

2回戦 向陵 0-5 藤野

【硬式テニス部】<新人戦大会個人戦>

Bリーグ1位 トーナメント優勝 小貫 楓夏

【バレーボール】<新人戦大会>

予選4勝1敗で位通過

全市トーナメント 1回戦 向陵 2-0 新陵

2回戦 向陵 0-2 琴似 ⇒全市ベスト16

【美術部】<第49回北海道神宮写生大会>

入選 林 洋夏、小野 莉里花、進藤 真央、平山 凜夢

【その他】<第69回全国小・中学校作文コンクール北海道審査>

読売新聞社賞 飯島 心乎、西村 美歩

<第65回札幌市読書感想文コンクール>

札幌市長賞 渡邊 光麗 光村図書出版賞 齋藤 亜唯

札幌市PTA協議会会長賞 増田 美玖

優良賞 岡 理紗子、小名木 優里

佳作 今村 壮吾、進藤 真央、片山 碧彩、中島 陽莉、堀之内 萌、三木 悠夏子

進路通信

いよいよ、高校入試も出願準備の段階に入りました。3年生は第5回目（最終）の進路希望調査を終え、12月の個人懇談で志望校の決定の運びとなります。

3年生の進路説明会で話した内容や資料は、北海道教育委員会・札幌市教育委員会が発行する高等学校入学者選抜実施要項に従い作成しています。これは、委員会のホームページ上で公開されています。

同じように、各都府県でもホームページ上に実施要項が公開され始めています。道外の公立高等学校の受検を希望する場合、そのホームページ上の「県（都府）外からの受検生の皆様」というような形で受検方法について解説していますので、道外受検の可能性のある1・2年生の保護者の皆様は一度目を通してください。

入試に関しての細かい情報ですが、受検者が「当日持参すべきもの」の中で、以下のものは持ち込めないと書かれています。

- ・分度器の付いている定規
- ・計算機（時計型、ペンシル型を含む）
- ・英語辞書付時計等
- ・携帯電話（スマートフォンやPHSを含む）
- ・その他学力検査の公正を損なうおそれのあるもの



携帯電話等は持ち込み自体が禁止されていますので、十分気をつけてほしいと思います。便利な文房具の一つの分度器つきの定規も不可となります。また、明記されていませんが、電子辞書の持ち込みは不可ですし、時計も目覚まし時計のようなものはふさわしくなく、色鉛筆やボールペン、蛍光ペンなども使用できないこととなっています。また、ティッシュペーパーは袋から出して机に置き、定規は2枚まで出せます。

日常の中学校での定期テストは、高校入試に準じて行われています。3年生はもとより、1・2年生も受検時のルールをしっかりと理解し、テストに臨む習慣を身に付けてほしいと思います。

進路指導主事 浅井 信孝